

2021年10月5日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、全体としては持ち直しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、消費への下押し圧力が強い状態にある。

輸出は、一部に供給制約の影響を受けつつも、増加基調にある。設備投資は、増加している。個人消費は、感染症の影響により、下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しが一服している。住宅投資は、持ち直している。公共投資は、増加している。こうした中で、生産は、一部に供給制約の影響を受けつつも、緩やかな増加を続けている。雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。この間、企業の業況感は、製造業・非製造業ともに引き続き改善している。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症や供給面の制約が、当地の経済金融情勢に与える影響などを注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、増加している。

輸出は、一部に供給制約の影響を受けつつも、増加基調にある。

設備投資は、増加している。

個人消費は、感染症の影響により、下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しが一服している。

家電販売額、乗用車販売は、横ばい圏内の動きとなっている。スーパー等販売額は、持ち直しの動きが続いている。百貨店販売額は、足もと弱い動きがみられている。外食売上高、旅行取扱額は、大幅に減少した状態が続いている。

住宅投資は、持ち直している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、一部に供給制約の影響を受けつつも、緩やかな増加を続けている。

内訳をみると、輸送機械関連において供給制約の影響を受けつつも、生産用機械を中心に緩やかな増加を続けている。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%程度となっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移しているが、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が一部にみられている。

6. 金融情勢

預金残高は、法人預金や個人預金の増加を背景に、前年比4%台半ばのプラスとなっている。

貸出残高は、既往の企業向けの資金繰り支援融資の増加から高水準で推移しており、前年比0%台半ばのプラスとなっている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上